



システム管理コマンド

この章は、次の項で構成されています。

- [disable ports leds](#) (3 ページ)
- [dying-gasp enable](#) (4 ページ)
- [hostname](#) (5 ページ)
- [reload](#) (6 ページ)
- [reload factory-default](#) (8 ページ)
- [resume](#) (10 ページ)
- [service cpu-utilization](#) (11 ページ)
- [show cpld version](#) (12 ページ)
- [show cpu input rate](#) (13 ページ)
- [show cpu utilization](#) (14 ページ)
- [show dying-gasp packets](#) (15 ページ)
- [show dying-gasp status](#) (16 ページ)
- [show environment](#) (17 ページ)
- [show inventory](#) (19 ページ)
- [show platform certificate](#) (21 ページ)
- [show platform hardware integrity](#) (26 ページ)
- [show platform integrity](#) (28 ページ)
- [show reload](#) (30 ページ)
- [show sessions](#) (31 ページ)
- [show software versions](#) (33 ページ)
- [show system](#) (35 ページ)
- [show system languages](#) (37 ページ)
- [show system tcam utilization](#) (38 ページ)
- [show services tcp-udp](#) (39 ページ)
- [show tech-support](#) (40 ページ)
- [show system fans](#) (42 ページ)
- [show system sensors](#) (45 ページ)
- [show system id](#) (47 ページ)

- [show ports leds configuration](#) (48 ページ)
- [show users](#) (49 ページ)
- [show hardware version](#) (50 ページ)
- [show hardware components](#) (51 ページ)
- [system light](#) (53 ページ)
- [system recovery](#) (54 ページ)
- [system reset-button disable](#) (55 ページ)

disable ports leds

デバイス上のすべてのポートのLEDをオフにするには、**disable ports leds** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。

デバイス上にあるすべてのポートのLEDをポートの現在の動作状態に設定するには、**no disable ports leds** コマンドを使用します。

構文

disable ports leds

no disable ports leds

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

デフォルトは **no disable port leds** です。つまり、すべてのポート LED はそれぞれの現在の状態を反映しています。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

次の例では、ポート LED をオフにしています。

```
switchxxxxxx(config)# disable ports leds
```

dying-gasp enable

このコマンドは、Dying Gasp機能を有効にし、メッセージの送信に使用するメソッドとその優先順位を選択します。このコマンドの **no** 形式を使用すると、デフォルト設定に戻ります（機能を無効にします）。

構文

dying-gasp enable *method1* [*method2...*]

no dying-gasp enable

パラメータ

Method1 [*method2...*] : Dying Gaspメッセージの送信に使用するメソッドのリスト。メソッドの順序は、メソッド間の優先順位を示します。この機能を有効にするには、少なくとも1つのメソッドを入力する必要があります。リストに含まれていないメソッドは、Dying Gaspメッセージの送信には使用されません。

考えられるメソッドは、snmp-traps、syslog です。

デフォルト設定

デフォルトでは、Dying Gaspは無効になっています。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード。

hostname

デバイスのホスト名を指定または変更するには、**hostname** グローバル コンフィギュレーションモードコマンドを使用します。既存のホスト名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

hostname *name*

no hostname

パラメータ

Name : デバイスのホスト名を指定します。(長さ : 1～58文字)。ホスト名は文字で始まり、文字または数字で終わり、その間には文字、数字、またはハイフンしか使用できません。

デフォルト設定

ホスト名は定義されていません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーションモード

例

次の例では、デバイスのホスト名を「enterprise」として指定しています。

```
switchxxxxxxx(config)# hostname enterprise  
enterprise(config)#
```

reload

ユーザ指定の時間にオペレーティング システムをリロードするには、**reload** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

reload [**in** [hhh:mm | mmm]] [**at** hh:mm [day month]] | **cancel**]

パラメータ

- **in** hhh:mm | mmm : (オプション) 指定した分数、または時間および分数が経過したときにソフトウェアがリロードされるようにスケジューリングします。リロードは、約 24 日以内に実行する必要があります。
- **at** hh:mm : (オプション) ソフトウェアのリロードが (24 時間制で) 指定された時刻に行われるようにスケジューリングします。月日を指定すると、指定された日時にリロードが行われるようにスケジュールが設定されます。月日を指定しなかった場合、リロードは当日の指定時刻に行われます (指定時刻が現時刻より後の場合)。または翌日の指定時刻に行われます (指定時刻が現時刻よりも前の場合)。00:00 を指定すると、深夜 0 時のリロードが設定されます。リロードは、24 日以内に実行される必要があります。
- **day** : (オプション) 1 ~ 31 の範囲で日付を指定します。
- **month** : (オプション) 月。
- **cancel** : (オプション) スケジューリングされているリロードをキャンセルします。

デフォルトの使用

なし

コマンドモード

特権 EXEC モード

User Guidelines

at キーワードは、システム クロックがデバイスに設定されている場合にのみ使用できます。いくつかのデバイスで同時にリロードが発生するようにスケジューリングするには、各デバイスで時間を SNTP と同期します。

at キーワードを使用してリロード時刻を指定するときに月日を指定した場合は、指定された日時にリロードが実行されます。月日が指定されていない場合は、リロードが (指定された時間が現在の時間よりも遅い場合は) 現在の日の指定された時間、または (指定された時間が現在の時間よりも早い場合は) 翌日の指定された時間に行われます。00:00 を指定すると、深夜 0 時のリロードが設定されます。リロードは、24 日以内に実行される必要があります。

スケジューリングされたリロードの情報を表示するには、**show reload** コマンドを使用します。

例 1 : 次に、スタックシステムのすべてのユニット、またはスタンドアロンシステムの単一ユニットでオペレーティングシステムをリロードする例を示します。

```
switchxxxxxx> reload
This command will reset the whole system and disconnect your current session. Do you
want to continue? (y/n) [Y]
```

例 2 : 次に、スタックシステムのすべてのユニット、またはスタンドアロンシステムの単一ユニットで10分後にオペレーティングシステムをリロードする例を示します。

```
switchxxxxxx> reload in 10
This command will reset the whole system and disconnect your current session. Reload is
scheduled for 11:57:08 UTC Fri Apr 21 2012 (in 10 minutes). Do you want to continue?
(y/n) [Y]
```

例 3 : 次に、スタックシステムのすべてのユニット、またはスタンドアロンシステムの単一ユニットで13:00にオペレーティングシステムをリロードする例を示します。

```
switchxxxxxx> reload at 13:00
This command will reset the whole system and disconnect your current session. Reload is
scheduled for 13:00:00 UTC Fri Apr 21 2012 (in 1 hour and 3 minutes). Do you want to
continue? (y/n) [Y]
```

例 4 : 次の例では、リロードをキャンセルしています。

```
switchxxxxxx> reload cancel
Reload cancelled.
```

reload factory-default

スタックまたはスタック内の特定のユニットをリロードし、設定を工場出荷時のデフォルトに戻すには、`reload factory-default` 特権 EXEC モードコマンドを使用します。

構文

`reload factory-default [unit unit-id]`

パラメータ

- **[unit unit-id]** : (オプション) 工場出荷時のデフォルトにリセットし、指定されたユニットのみをリロードします。スタック内の他のユニットはリセットまたはリロードされません。このパラメータが指定されていない場合、スタック内のすべてのユニットが工場出荷時のデフォルトにリセットされ、リロードされます。

デフォルトの使用

デフォルトでは、スタック内のすべてのユニットが工場出荷時のデフォルト設定にリセットされ、リロードされます。

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

このコマンドは、スタック内のすべてのユニットを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。`[unit unit-id]` パラメータが指定されている場合、指定されたユニットのみが工場出荷時のデフォルトにリセットされます。このコマンドは、デバイスリセットボタンを押して工場出荷時のデフォルトへのリセットとデバイスのリロードを開始するのと同じ効果があります。スタック設定、設定ファイル、`syslog` ファイル、およびその他の設定関連ファイルは消去されます。工場出荷時のデフォルトにリセットされたユニットはスタックから切断され、スタックトポロジが変更されます。これにより、スタック内のユニット間で切断が発生する可能性があります。

コマンドの `[unit unit-id]` パラメータでアクティブユニットが指定されている場合、スタックは残りのユニットのいずれかがスタンバイユニットである場合にのみ稼働を継続します。

例

例 1 : 次の例では、工場出荷時のデフォルトにリセットし、スタック内のすべてのユニットをリロードします。

```
switchxxxxxx> reload factory-default
This command will reset to factory default and reload all of the units in the
stack. It is highly recommended to backup the stack configuration before
applying this command.
```

例 2 : 次の例では、工場出荷時のデフォルトにリセットし、ユニット番号 3 のみをリロードします。

```
switchxxxxx> reload factory-default unit 3
This command will reset to factory default and reload the selected unit. The
unit will disconnect from the stack and will no longer be a member of the
stack. The disconnection of the unit will affect the stack topology and may
disconnect other units in the stack.
Do you want to continue? (y/n) [Y]
```

resume

別のオープンしている Telnet セッションへの切り替えを有効にするには、**resume** EXEC モード コマンドを使用します。

構文

resume [*connection*]

パラメータ

connection : (オプション) 接続番号を指定します。(範囲 : 1 ~ 4 接続。)

デフォルト設定

デフォルトの接続番号は、最新接続の番号です。

コマンドモード

特権 EXEC モード

例

次のコマンドは、オープンしている Telnet セッション番号 1 に切り替えます。

```
switchxxxxxx> resume 1
```

service cpu-utilization

CPU使用率の測定を有効にするには、**service cpu-utilization** グローバルコンフィギュレーションモードコマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

service cpu-utilization

no service cpu-utilization

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

CPU 使用率の測定は有効になっています。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

CPU 使用率の情報を測定するには、**service cpu utilization** コマンドを使用します。

例

次の例では、CPU 使用率の測定を有効にしています。

```
switchxxxxxx(config)# service cpu-utilization
```

show cpld version

デバイス CPLD コードのバージョンを表示するには、**show cpld version** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。

構文

show cpld version [**unit** *unit-id*]

パラメータ

unit [*unit-id*] : ユニット番号を指定します (範囲 : 1 ~ 4)。指定しない場合、このコマンドはスタック内のすべてのユニットの CPLD コードのバージョンを表示します。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例 1 : 次に、スタック内のすべてのユニットの CPLD バージョンを表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx> show cpld version
Unit ID      Unit Type      CPLD code Version
-----
1             CBS350-48P-4X      1.0.1
2             CBS350-48P-4X      1.0.2
```

例 2 : 次に、スタック内のユニットに CPLD がない CPLD バージョンを表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx> show cpld version
Unit ID      Unit Type      CPLD code Version
-----
1             CBS350-48P-4X      Not Supported
2             CBS350-48P-4X      1.0.2
```

show cpu input rate

CPU への入力フレームのレートをパケット/秒 (pps) で表示するには、**show cpu input rate** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。

構文

show cpu input rate

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

次に、CPU 入力レート情報を表示する例を示します。

```
switchxxxxxx> show cpu input rate  
Input Rate to CPU is 1030 pps.
```

show cpu utilization

CPU 使用率に関する情報を表示するには、**show cpu utilization** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

show cpu utilization

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルトの使用

なし

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

show cpu-utilization コマンドは、CPU 使用率の測定を有効にする場合に使用します。

例

次に、CPU 使用率情報を表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx> show cpu utilization
CPU utilization service is on.
CPU utilization
-----
five seconds: 5%; one minute: 3%; five minutes: 3%
```

show dying-gasp packets

dying-gasp イベントの発生時に送信されるパケットに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで show dying-gasp packets コマンドを使用します。

構文

show dying-gasp packets

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

このコマンドは、スイッチの電源が失われた場合に送信されるパケットに関する情報を表示し、dying gasp パケットを送信します。

dying gasp メッセージが送信される各 SYSLOG サーバーおよび SNMP トラップ受信者に関する情報が提供されます。次の情報が含まれます。

受信者 IP アドレス

アウトバウンドインターフェイス

ローカル IP アドレス

ローカル MAC アドレス

ネクストホップの IP アドレスと MAC アドレス。

コマンドで syslog または snmp-trap キーワードを使用して、1 つの方式のパケットだけを表示することができます。

例

例：次の例は、コマンドの出力を示しています。

```
switchxxxxxx# show dying-gasp packets
Syslog packet for server 8.1.154.22, link type IP
Via interface gigabitEthernet1/0/6, local IP address 8.1.154.98
Encap type is ARPA, local MAC address 00:50:43:8a:ce:19
Next hop IP address 8.1.154.192, next hop MAC address a2:43:41:44:8a:f2
SNMP trap packet for server 6.193.2.29, link type IP
Via interface gigabitEthernet1/0/3, local IP address 6.193.2.5
Encap type is ARPA, local MAC address 00:50:43:8a:ce:19
Next hop IP address 6.193.2.45, next hop MAC address 82:a3:9c:15:cb:3d
```

show dying-gasp status

このコマンドは、Dying Gasp 機能のグローバル設定を表示します。

例

次の例で、show-dying-gasp-status を設定する方法を示します。

```
Switch000000#show dying-gasp status
Dying Gasp Status: Enabled
Method 1: Syslog
Method 2: SNMP Traps
```

show environment

環境情報を表示するには、**show environment** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。

構文

```
show environment {all | fan | temperature {status} | stack [switch-number]}
```

パラメータ

- **all** : ファンと温度の一般的なステータスを表示します。このパラメータを使用した場合は、スタックユニットのいずれかに障害が発生している場合は、その障害状況を報告します。
- **fan** : ファンのステータスを表示します。
- **temperature {status}** : 温度ステータスを表示します。
- **stack [switch-number]** : (オプション) スタックの環境ステータスの詳細をスタックユニットごとに表示します。switch-numberが指定されている場合は、選択したデバイス番号の電話番号の環境ステータスが表示されます。(範囲: 1 ~ 4)

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

fan status パラメータと **temperature status** パラメータは、ファンセンサーや温度センサーが設置されているデバイスでのみ使用できます。

ファンステータスは、次のいずれかになります。

- **OK** : ファンは正しく機能しています。
- **Failure** : 1つ以上のファンに障害が発生しています。
- **Fan read fail** : 1つ以上のファンからの情報の読み取りに失敗しました。
- **NA** : ファンは設置されていません。

温度は、次のいずれかになります。

- **OK** : 温度は、警告しきい値を下回っています。
- **Warning** : 温度は警告しきい値とクリティカルなしきい値の間です。
- **Critical** : 温度は、クリティカルしきい値を上回っています。

センサーステータスは、次のいずれかになります。

- **OK** : デバイスのすべてのセンサーが正常に機能しています。
- **Failure** : 1つ以上のセンサーに障害が発生しています。
- **NA** : センサーは取り付けられていません。

例 1 : 次に、デバイスまたはスタックの一般的な環境ステータスを表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx> show environment all
```

内部電源装置がアクティブになっています。

```
fans OK
Sensor is OK
Temperature is OK
#EDITOR: The temperature status is OK if ALL the temperature sensors status in all the
stack members is OK, and if the temperature of all the stack members is below the lowest
threshold (this is calculated per stack member, if one or more of the stack members
temperature is above its specific threshold, the temperature status is FAILURE)
#EDITOR: Likewise the fan status will be OK - only if status of fans on ALL stack members
is OK (meaning no fan fail - or with redundant fan support - only 1 fan fail and redundant
fan active
```

例 2 : 次に、デバイスまたはスタックの電源の状態を表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx> show environment power
```

内部電源装置がアクティブになっています。

例 3 : 次に、デバイスまたはスタックの一般的なファンステータスを表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx> show environment fan
```

```
fans OK
#EDITOR: The fan status is OK if the fan sensors status in ALL the stack members is OK
```

例 4 : 次に、デバイスまたはスタックの温度ステータスを表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx> show environment temperature status
TEMPERATURE level is Warning
```

例 5 : 次に、デバイスまたはスタックの一般的な環境ステータスの詳細を表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx> show environment stack
```

```
Unit          fan Status
---          -
1             OK
2             Failure
3             Read fan fail
4             NA
#EDITOR: * fan Direction column will be printed only in SKUs which support this feature,
or in a stack when one of the units might support this feature.
Unit          Sensor      Temperature
              Status      Level
---          -
1             OK          warning
2             Failure     NA
3             NA          NA
4             OK          OK
```

show inventory

製品インベントリリストを表示するには、**show inventory** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。

構文

show inventory [*entity*]

パラメータ

entity : 表示するエンティティを指定します。スタック内の特定のユニット番号の番号 (1 ~ 4) またはインターフェイス (イーサネット) 名を指定できます。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

デバイス、スタック内のユニット、および接続されているエンティティ (SFP など) に関するインベントリ情報を取得して表示するには、**show inventory** コマンドを使用します。

エンティティを指定していない場合、コマンドはスタック内のすべてのユニットと接続されているすべてのエンティティの情報を表示します。

指定したエンティティがインターフェイス (イーサネット) 名で、SFP がポートに挿入されていない場合、NAME & DESCR フィールドのみが表示され、DESCR は「No SFP Inserted」になります。

例

例 1 : 次に、スタンドアロンシステム内のすべてのエンティティを表示する例を示します。

```
switchxxxxxx> show inventory
NAME: "1", DESCR: "48-Port Gigabit with 4-Port 10-Gigabit Managed Switch"
PID: xx350-4x-K9, VID: V01, SN: 123456789
```

例 2 : 次に、スタンドアロンシステム内の特定のエンティティを表示する例を示します。

```
switchxxxxxx> show inventory gigabitethernet1/0/49
NAME: "GigabitEthernet1/0/49", DESCR: "1000M base-LX Mini-GBIC SFP Transceiver"
PID: MGBLX1,VID: V01, SN: AGC1525UR7G
```

例 3 : 次に、VID 情報を SFP から読み取ることができない特定のエンティティの情報を表示します。

```
switchxxxxxx> show inventory gi1/0/1
NAME: "gi1/0/1", DESCR: "SFP-1000Base-LX"
PID: SFP-1000-LX ,VID: Information Unavailable , SN: 613bbgr8
```

例 4 : 次に、SFP がインターフェイスに挿入されていない特定のインターフェイスの情報を表示します。

```
switchxxxxxxx> show inventory gi1/0/2  
NAME: "gi1/0/2", DESCR: "SFP not inserted"
```

例 5 : 次に、ユニットが 2 つのスタック構成システムのすべてのエンティティを表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx> show inventory  
NAME: "2", DESCR: "48-Port Gigabit with 4-Port 10-Gigabit Managed Switch"  
PID: xx350-4x-K9 , VID: V01, SN: 123456789  
NAME: "GigabitEthernet2/0/49", DESCR: "1000M base-LX Mini-GBIC SFP Transceiver"  
PID: MGBLX1, VID: V01, SN: AGC1525UR7G  
NAME: "4", DESCR: "48-Port Gigabit with 4-Port 10-Gigabit Managed Switch"  
PID: xx350-4x-K9 , VID: V01, SN: 123456789
```

例 6 : 次に、スタックのユニット 1 の情報を表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx> show inventory 1  
NAME: "1" DESCR: "48-Port Gigabit with 4-Port 10-Gigabit Managed Switch"  
PID: xx350-4x-K9 VID: V02 SN: 402
```

show platform certificate

アクティブなユニットの SUDI 証明書または AIK 証明書と、任意でその証明書の署名を表示するには、`show platform certificate` 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

```
show platform {sudi | attestation} certificate [sign [nonce <nonce value>]]
```

パラメータ

- **{sudi | attestation}** : SUDI または構成証明 (AIK : 構成証明アイデンティティキー) 証明書を表示します。
- **sign** : (オプション) 証明書の署名を表示します。
- **[nonce <nonce value>]** : (オプション) リプレイアタックから保護するために署名で使用するナンスを指定します。(範囲 : 0 ~ 4,294,967,295)

デフォルトの使用

証明書は署名なしで表示されます。`sign` パラメータをナンス値なしで指定した場合、署名はナンスを使用せずに生成されます。

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

`show platform certificate` コマンドは、デバイスの SUDI または AIK (構成証明アイデンティティキー) 証明書を表示します。

コマンド出力には、PEM 形式の証明書チェーンが含まれます。表示される最初の証明書は Cisco Root CA で、2 番目はシスコが <https://www.cisco.com/security/pki/> で公開する証明書です。3 番目の証明書は、SUDI または AIK リーフ証明書です。

オプションの `sign` パラメータを使用すると、SUDI (`sudi` キーワードが使用されている場合) または AIK (構成証明キーワードが使用されている場合) の秘密キーを使用して、コマンド出力に証明書の署名が表示されます。

コマンドは、リプレイアタックを防ぐために書名入力の一部として使用されるオプションの `[nonce <nonce value>]` パラメータもサポートしています。`[nonce <nonce value>]` パラメータが指定されていない場合、署名されたデータにナンスは含まれません。

コマンド出力には、署名バージョンが含まれます。署名値 1 は、SUDI 秘密キーが署名に使用されたことを示し、署名値 2 は AIK 秘密キーが署名に使用されたことを示します。

例

例 1：次の例では、SUDI 証明書チェーンが書名なしで表示されます。

```
switchxxxxx> show platform sudi certificate
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIDITCCAgmgAwIBAgIJAZozWHjOFsHBMA0GCSqGSIb3DQEBCwUAMC0xDjAMBGNV
BAoTBUNpc2NvMRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBSb290IENBIDIwOTkwIBcNMTYwODA5
MjA1ODI0WHgPMjA5OTA4MDkyMDU0MjhaMC0xDjAMBGNVBAoTBUNpc2NvMRswGQYD
VQQDExJDaXNjbyBSb290IENBIDIwOTkwggEiMA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4IBDwAw
ggEKAoIBAQDTtuM1fg0+9Gflk4axlCK1I2fb3ESCL8+tk8kOXlhfrJ/zlfrbe60
xRP0iUGMKWKBj0IvvWFF4AW/nyzCR8ujTt4a1Eb55SAKXbXYQ7L4YMG+lzmzg/I
v3GJEc3HCYU0BsY8g9LuLMvqwiNmAwM2jWzNq0EPArT/F6RiQKq6Ta3e7VI fDZ7J
650A2xASA2FrSe9Vj97KpQRdcm6G7cqFH5f+CrdQ4qwaA4zWNYM3kOpUb637DNd
9m+n6WECyc/IUD+2e+yp2lkBZIKH7JvDpu2U7NBPfr52mFX8AfCZgkXV69bp+iYf
saH1DvXi fPpNp93zGKUSXxEj4w881t2zAgMBAAGjQjBAMA4GA1UdDwEB/wQEAwIB
BjAPBgNVHRMBAf8EBTADAQH/MB0GA1UdDgQWBBC41VcPNCNO86EmILOUkcdBiBzY
WzANBgkqhkiG9w0BAQsFAAOCAQEAEjKZo+4xd05Tftq99nKnWA0J+DmydBOnPMwY
lDrKfBKe2wVu5AJMvRjgJIoY/CHVPaCOWH58UTqfji95eUaryQ/s36RKRBgMMLwr
WN1txE625PHuaN6EjD1WdWRMZ2hy8F4FCKz5hgUEvN+PUNZwsPnpU6q3Ay0+11T
4TriwCV8kX3cWu0NvTypYCCXmScSfLFQR13bo+1z6XNm30SecmrXkmQBVmQjCZM
VvAxhxWlI GnydPRQuNqt0xITzCSERqg3QVVqYnFJUkNVN6j0dmmMVKZhl7HgqLnF
PKkmBlNq9hQcNM3CSzVvEAK0CCEo/NJ/xzZ6WX1/f8Df1eXbFg==
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIEZzCCA0+gAwIBAgIJCmR1UkzYYXxiMA0GCSqGSIb3DQEBCwUAMC0xDjAMBGNV
BAoTBUNpc2NvMRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBSb290IENBIDIwOTkwIBcNMTYwODEx
MjA5ODA4WHgPMjA5OTA4MDkyMDU0MjhaMC0xDjAMBGNVBAoTBUNpc2NvMIIBIjANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ
A8AMIIBCBgKCAQEAvdzesWdDI6LRZDYRvA6JqaRvQyy6Dx1WaqI82UeKR4ZRN0ef
xMGvP4c88/VMS8WSjQ01qo1MfMxqHkcSiFBOULx6Trquw4TrEf9sIuzvGjvDaEa8
I1LXPwtPtNqZEIWI8jlinz2uGam93KuGPCioHfruzbDKWHL/HWFGYMGz+OKwhD3J
4NRySkNqUovfV8eWLeVOqW8rbnG3TZxv5VexOiK4jL30bvsQPuAWUwUoo7nuFLE
GTG/VCeyCe/H8+afIScbZOKI9xejtkflnBYFVCyFxm2H3YZatb6ohbyRXLtOPj
T35J+OooYMLsLd28z727LpRbFFLGYhyWxEXDuQIDAQABo4IBgjjCCAX4wDgYDVDR0P
AQH/BAQDAgEGMBIGALUdEwEB/wQIMAYBAf8CAQAwwfYIKwYBBQUHAQEeczBxMEEG
CCsGAQUFBzAchjVodHRwczovL3d3dy5jaXNjby5jb20vc2VjdXJpdHkvcGtpL2N1
cnRzL2NyY2EyMdk5LmNlcjAsBggrBgEFBQcwAYYgaHR0cDovL3BraWwN2cy5jaXNj
by5jb20vcGtpL29jc3AwHwYDVROjBBgwFoAU0JVXDzQjTvOhJiC6FJHHYgdol1sw
UgYDVROgBEswTBHhgogorBgEAAQkVAR4AMDkwNwYIKwYBBQUHAQEWK2h0dHA6Ly93
d3cuY2l1zY28uY29tL3N1Y3VyaXR5L3BraS9wb2xpy21lcy8wQwYDVROfBDwwOjA4
oDagNIYyaHR0cDovL3d3dy5jaXNjby5jb20vc2VjdXJpdHkvcGtpL2NybC9jcmNh
MjA5OS5jcmwWQYDVRO0BBYEF0pro7nBE5d+G/s6jWhgBz1fh0j6MA0GCSqGSIb3
DQEBCwUAA4IBAQBcQYEOgAhhGKndwM901XX2Enh4hjXR5avDg7G/f6Tb9H590fdT
QW+AeZGEGhhwUrw1EeG79tHkncAe+m+64xMCl1tYI1RSyn8rBqQYkXnnCRbtF/Nw
pQe5fjvdeIFWJhUI16T0t/Z1kNnWnLsUU1a1zmN+J/FhSr8VTJWGRM9gY8hefH8f
5U7LMiDXsFVHB7R6KGNjvtawrl6W6RKp2dceGxEIIVMahgMWWHH1WOQAOTvRhuE
NEjYR/7k1LLwdgQF/NNCA2z47pSfMFnBcr8779GqVIBtP0P2E6+1pBrE2jBNNoc
uBG1fgvhlqtJUdBbtziAKNoCo4sted6PW2/U
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIEITCCAwmgAwIBAgIKBgEgAwc2RDFGxTANBgkqhkiG9w0BAQsFADAXMR8wHQYD
VQQDExZiAwd0IEFzc3VyYW55ZjZSBTVURJiENBMQ4wDAYDVQQKEwVDAxNjbyZAgFw0y
MjA4MDExMDEwMDhaGA8yMDk5MDgwOTIwNTgyN1owYjEoMCMYGA1UEBRMFUE1E0kMx
MjA4WLE2UC0yRyBTTjEpeVfkyNjMxMDAxNTEOMAwGA1UEChMFQ21lZy28xETAPBgNV
BAsTCFRQTSBTVURJMRmEQYDVQQDEwMSUdIVFNBBQkVSMiIBIjANBgkqhkiG9w0B
AQIFAoCAQ8AMIIBCBgKCAQEAxH1UxYHK+BoQ3N7sL2u0Tgc3aJuJGnfJbrMhtow3
S8EMyeBeZpdWbfpn/zFH8TC3J9cr1NA4EvYi1Q1i9ioSuBLLTjDujhAIPVqZnmy
cEDjDG0I2xPYz+nL83ULkYWWTejarfz4jIPYb9polveMavEqcEtBQHmPAlbzZyL
adRSrj32ph+XlnZ8BKU1BzXq52zcXsz2fICd0evw409f2LOMTvzMKn/i8dLx4gy1
oP95/EgJLgTydtpZyuA8TG9fy23qrWdJzZm+ZS+6cYr120Eu7j5t5oN3IFAYxMwk
lMRaR+ft5QWgK/ZBvAd3eme1LB7K48h/nxKBLrtD6aobiQIDAQABo4IBBjCCAQIw
DgYDVROfBAQH/BAQDAgXgMAwGA1UdEwEB/wQCMAAwHwYDVROjBBgwFoAU6mujuCEt
134b+zqNaGAHOV+HSPowgaEgALUdEQSBmTCBlqBQBgorBgEAAQkVAwQCoEITQDFG
```


show platform certificate

```
MjA4MDExMDEwMDhaGA8yMDk5MDgwOTIwNTgyNlowYjEoMCMYGA1UEBRMFUE1EOkMx
MjAwLWTE2UC0yRyBTTjpeVfkyNjMxMDAxNTEOMAwGA1UECHMFQ2lZy28xETAPBgNV
BASTCFRQTSBTVURJMRmweQYDVQDEwPMSUdIVFNBQkVSMIIBIjANBgkqhkiG9w0B
AQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEAXHlUxYHK+BoQ3N7sL2u0Tgc3aJuJGnfJbrMhtow3
S8EmyyebeZpdWbfpn/zFH8TC3J9cr1NA4EvYi1Qli9ioSuBLLTjDujhAIPVqZnmy
cEDjDG0I2xPYz+nL83ULkYWWTejarfz4jIPYb9polveMavEqcEtBQHmPAlbzZyL
adRSrj32ph+XlnZ8BKU1BzXq52zcXsz2fICd0evw4O9f2LOMTvzMkn/i8dLx4gy1
oP95/EgJLgTydtpZyuA8TG9fy23qrWdJzZm+ZS+6cYr120Eu7j5t5oN3IFAYxMwk
lMRaR+Ft5QWgK/ZBvAd3emelLB7K48h/nxKBLrtD6aobiQIDAQABO4IBBjCCAQIw
DgYDVR0PAQH/BAQDAgXgMAwGA1UdEwEB/wQCMAAwHwYDVR0jBBgwFoAU6mujuET
134b+zqNAGAHOV+HSPowgaEGA1UdEQSBmTCBlqBQBgorBgEEAQkVAwQCoEITQDFG
OTLBMDQ5Qzk1MjgXRjU1RjhBNjhBNzJFMjA0OURCQzgyOTAwNjREMjUzUjDEMUI3
RDkzQ0IXNdC3MzdBMTmgQgYJKwYBBAEJFQIDoDUTM0NoaXBJRD1Vd01DQUBQUBF
QUBFBQUBQUBFBQUBFBQUBFBQUBFBQUBFBQUBFBQUBFBQUBFBQUBFBQUBFBQUBFBQ
Gy2I7j1nREZxpDmwbA5+hcQwDQYJKoZIhvcNAQELBQADggEBAA2KBFfaQf5kFaMJ
DJtGTyMNfu0hYjELDCwMK04iepolw8bg9R1b25LXYX+Rkk1/Z1Io3wLmRYNIddow
NQbJwT8Ch27kYyjnHcBWgz/M/DWofKgePn1S/Lw3ssLiAN67Y4dqUycUq7QVwG/I
zHO8oMu4sWjarkpiMTibJbw6w5PbJhd8meHoaJA1AV0pNKASvsIKoCZIIcRP/RFZ
dnRMM9LQUqeVob9hn5WRQ5PrweuALXMKUpmqeHsxSxa0M9w2u7dDYq/oeGZUk93
9JaBqW4nwZ50MkwK9qLzYfZr5HD+YfJup22DoSdXZhO+gz4MzVCqDp5zsEyDPZ16
XLN5ZZ4=
-----END CERTIFICATE-----
Signature version: 1
Signature:
6ca45d415eace3b6cc09d84026dfcb4d1fbf614c319d3d28a3b924f6f432b26254aeca9c22aa150c
cfadd78bf2c4326d89f863eb52893e2cf3b9ddcd6d1f8ff00ea5830eec1281446c5ab5c92eee0030
6d25a1c75a6b0deaf9fee88b2b62d5e341bbe2fdbfb4cf4b5720d74f4e63f16c2012baadb5251a9d
bc871c4977335b8152715a95b48003d139e9e7e19fb7aa84f62e1a8c0e007a15f2a312c839b96170
e05e58a0e0f9ee78a28ff9c9ddeb73fc7fdde0cbb556fa17aeb0d984bb4afa435fe40599de1c222bd
d132112ecb23ea1ca7ea78b40b2fb39d04867c05b0a7965e2180ba79688da06864be541f4956db96
3e48ad26f817bb56465f11e5ff89e128
```

Signature version: 1

Signature:

```
6ca45d415eace3b6cc09d84026dfcb4d1fbf614c319d3d28a3b924f6f432b26254aeca9c22aa150c
cfadd78bf2c4326d89f863eb52893e2cf3b9ddcd6d1f8ff00ea5830eec1281446c5ab5c92eee0030
6d25a1c75a6b0deaf9fee88b2b62d5e341bbe2fdbfb4cf4b5720d74f4e63f16c2012baadb5251a9d
bc871c4977335b8152715a95b48003d139e9e7e19fb7aa84f62e1a8c0e007a15f2a312c839b96170
e05e58a0e0f9ee78a28ff9c9ddeb73fc7fdde0cbb556fa17aeb0d984bb4afa435fe40599de1c222bd
d132112ecb23ea1ca7ea78b40b2fb39d04867c05b0a7965e2180ba79688da06864be541f4956db96
3e48ad26f817bb56465f11e5ff89e128
```

例3: 次の例では、構成証明 (AIK) 証明書チェーンが 67890 のナンスを使用して証明書の署名付きで表示されます。

```
switchxxxxx> show platform attestation certificate sign nonce 67890
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIDITCCAgmgAwIBAgIJAzozWHjOFsHBMA0GCSqGSIb3DQEBCwUAMC0xDjAMBGNV
BAoTBUNpc2NvMRswGQYDVQDEwPMSUdIVFNBQkVSMIIBIjANBgkqhkiG9w0B
AQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEAjEjKz0xTzCSERgg3QVvqYnFJUkNVN6j0dmmMVkZhl7HgqLnF
PKkmBlNq9hQcNM3CSzVvEAKOCCeo/NJ/xzZ6WX1/f8Df1eXbFg==
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIEZxCCA0egAwIBAgIJCcsCKAlbCuHJDMA0GCSqGSIb3DQEBCwUAMC0xDjAMBGNV
BAoTBUNpc2NvMRswGQYDVQDEwPMSUdIVFNBQkVSMIIBIjANBgkqhkiG9w0B
AQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEAjEjKz0xTzCSERgg3QVvqYnFJUkNVN6j0dmmMVkZhl7HgqLnF
PKkmBlNq9hQcNM3CSzVvEAKOCCeo/NJ/xzZ6WX1/f8Df1eXbFg==
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIEZxCCA0egAwIBAgIJCcsCKAlbCuHJDMA0GCSqGSIb3DQEBCwUAMC0xDjAMBGNV
BAoTBUNpc2NvMRswGQYDVQDEwPMSUdIVFNBQkVSMIIBIjANBgkqhkiG9w0B
AQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEAjEjKz0xTzCSERgg3QVvqYnFJUkNVN6j0dmmMVkZhl7HgqLnF
PKkmBlNq9hQcNM3CSzVvEAKOCCeo/NJ/xzZ6WX1/f8Df1eXbFg==
-----END CERTIFICATE-----
```

```

AWekGtr1XUB2gJ72vXwqV01f4uFw7GHO+hREqogRLhtF/7uH6CoVO/fmcUFYIT+C
MSKzxJAbeITSd13WCNzSXYiXrTMCawEAAaOCAYIwggF+MA4GA1UdDwEB/wQEAWIB
BjASBgNVHRMBAf8ECDAGAQH/AgEAMH8GCCsGAQUFBwEBBHMwCtBBBggrBgEFBQcw
AoY1aHR0cHM6Ly93d3cuY2l2Y28uY29tL3N1Y3VyaXR5L3BraS9jZXJ0cy9jcmNh
MjA5OS5jZXIwLAYIKwYBBQUHMAAGIGh0dHA6Ly9wa21jdnMuY2l2Y28uY29tL3Br
aS9vY3NwMB8GA1UdIwQYMBaAFDiVvW80I07zoSYguhSRx0GIHaNBMFIGA1UdIARL
MEkwRwYKKwYBBAEJFQECADA5MDcGCCsGAQUFBwIBFItodHRwOi8vd3d3LmNpc2Nv
LmNvbS9zZWN1cm10eS9wa2kvcG9saWNpZXMvMEMGA1UdHwQ8MDowOKA2oDSGMmh0
dHA6Ly93d3cuY2l2Y28uY29tL3N1Y3VyaXR5L3BraS9jcmwvY3JjYTIwOTkuY3Js
MB0GA1UdDgQWBQBQAhr0P19nnPZCyDOSo7cfzLETspjANBqkqhkiG9w0BAQsFAAOC
AQEAhyX1bLYZRW6CxRvVobb4Gvt8HFHKCaqx0yPbnDAjktzq3/yrb6TevdITft2U
VZj078/yJRACGffz8d1aBnVp8LEMcBZTzs2tvP6gkjgptqC+FFV0+8LcDxzoeRx6
vaVgp9CPbpfLRp4wewp/phXonRshNwXWdVgk2lK/o3njguc/5jI5SPzeJFMMJOF
ZgrExhmcKRDVap9fJi/JOizo+1Qwp9hPEthBELv9UksA4NKEdlwNjTOhPB6GU7wU
XrSFE5Svf5YVAPxKl0Gkw5ulStiWM7UsnS1RaXfBPqrsR1SlzIQQlr4B85EzTBuK
HvlCRCEPQZcg3CItN3b8UtPLLQ==
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIEGTCCAwwGgAwIBAgIKAA4Nld5RVSDU2ozANBqkqhkiG9w0BAQsFADApMRcwFQYD
VQQDEw5BdHRlc3RhdGlvbiBDQTEOMAwGA1UEChMFQ2l2Y28wIBcNMjIwODAxMTAx
MDA4WhgPMjA5OTA4MDkyMDU0MjZAMGIXKdAmBGNVBAUTH1BJRDpDMTIwMCOxNlAt
Mkcgc0046RFRZMjYzMTAwMTUxZjAMBGNVBAoTBUNpc2NvMREwDwYDVQQLZwUUE0g
U1VESTETMBEGA1UEAxMKTElHSFRtQUJFUjCCASiWdQYJKoZIhvcNAQEBBQADggEP
ADCCAQoCggEBBAJtUHXzPGFhzrlJ251GUrGuL8Ek3axTdrurLqzNslvx5YstP2VM
Q5qDua2ovRcESrSxtfNMwUdm9+FX8EipsxgIRX5+oZz8ka8oNVEKyTPyB5up17Xi
9G15wvVBUHceVERCX33LqV2whiA2hMdsGdsSeGlJteQi3zjeokXeoJw9MDyJsmTj
CBQHCNGS+GgKXSqMt3k54K8S3RSi/P/R/oPKoA0z2ZUsu9/boHTAwX/ZGMJ8U48X
C93adaOef1J0grt5scL073jz1SbI4NS2ind8DGS2f059pdKHZvCetNJMcGugnpx
S6jOkf4qiTVSpbuEos8VDMgubaWf7KUUSB8CAwEAAaOCAYwggECMA4GA1UdDwEB
/wQEAWIF4DAMBGNVHRMBAf8EAjAAMB8GA1UdIwQYMBaAFAAeug/X2ec9kLIM5Kjt
x/MsRoymMIGhBgNVHREEGZkwgZagUAYKKwYBBAEJFQMEAgBCE0AaxRjk5QTA00UM5
NTI4MUy1NUY4QTY4QTcyRTIwND1EQkM4MjkwMDY0RDI1MzI3RDFCN0Q5M0NCMTQ3
NmM3QTE5oEIGCSsGAQQBRCUCA6A1EzNDaGlwSUQ9VXdJQ0FBQUBQUBQUBQUBQUBQ
QUFBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUBQUB
+2jci9Vq6mIdMA0GCSqGSIb3DQEBCwUAA4IBAQB0U1fs7UQaHdkhB/X44U+fOt0U
1wW/L5yPuDc7zWGHcxFkdZBP+4e4M491dKI8B0ULdFhZThHnf/WeQ2c9TftPc0kI
f3gqo9ez7oBlM/2Y1luG0D3WigAyZjonqmW3/tikYiVKGs7eGGyl022S9y5jXxjz
qqtz5LU+S9d1NGtKd1rYhA12ZZ9ikUhBUPDpbG0JanGaYOLpwV17wkynYnI5bhn
gjAylgV5RqBRN61uvDWTN02LvXCKYChSMJxH8VN8d75D68gg/XcL0zcTUVV1ENsi
grZkZxpqU3cRjQsUVBsPXSSKhgryuVv0wcZcMAU1Bg7e1M67bTzet+d1YvWH
-----END CERTIFICATE-----
Signature version: 2
Signature:
33bf4ff78bf66930494bc2376244e9b022931b7c0519a5d123e5571287a5b1ddcc4b90a80870d263
ec9f5a38b9f4c44973527b4ddcb6c8d515e64c9862362884671fff7e1e279fa6d1d8b3d81604930a
0a94b6ba8f6224ce6b60172b105ced211120528af39362269f0b4bbf7adcc9532e108b4035d2d139
62ffd5792ac1565f7e04932938b942e90ca9aefb8bf4a3cd0f804494486e1b579934aac8f42a57e9
40069463151d5e01c1d5e8b8e66b4f300c05e01aadcfaf3dc0588b6e699f1367af4fcfe19bc58a21
55d02592a7fbe158558937b9c642d90c39ce9f7a8f759cc8ec230443410dd668f3a9383bc89cc546
650902fbc637f921b4a3d17007ee98bb

```

show platform hardware integrity

アクティブユニットの PCR-15 (PCR: プラットフォーム コンフィギュレーション レジスタ) の内容を含むチップ保護情報を表示し、オプションで、コマンド出力表示に含まれる PCR または PCR Quote の署名を表示するには、show platform hardware integrity 特権 EXEC モードコマンドを使用します。

構文

```
show platform hardware integrity [[attestation] [sign [nonce <nonce>]]]
```

パラメータ

- **sign** : (オプション) PCR-15 または PCR-15 Quote の署名を表示します。
- **attestation** : (オプション) 構成証明 (AIK) 秘密キーを使用して PCR-15 Quote に署名します。attestation が指定されていない場合は、SUDI 秘密キーを使用して PCR-15 に署名します。
- **[nonce <nonce value>]** : (オプション) リプレイアタックから保護するために署名で使用するナンスを指定します。(範囲: 0 ~ 4,294,967,295)

デフォルトの使用

PCR 情報は署名なしで表示されます。sign キーワードをナンス値なしで指定した場合、署名はナンスを使用せずに生成されます。attestation キーワードが指定されていない場合は、SUDI 秘密キーが PCR の署名に使用されます。

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

show platform hardware Integrity コマンドは、オンデマンドのチップ保護構成証明を提供します。このコマンドは、アクティブユニット PCR (プラットフォーム コンフィギュレーション レジスタ) 15 の内容を表示します。PCR-15 は、デバイス固有のチップ ID の拡張です。**sign** キーワードを使用した場合、コマンド出力で PCR-15 の署名が表示されます。**attestation** キーワードを使用した場合、コマンド出力には PCR Quote も含まれ、署名は見積りに表示されます。

コマンドは、リプレイアタックを防ぐために書名入力の一部として使用されるオプションの **[nonce <nonce value>]** パラメータもサポートしています。**[nonce <nonce value>]** パラメータが指定されていない場合、署名されたデータにナンスは含まれません。

コマンド出力には、署名バージョンが含まれます。署名値 1 は、SUDI 秘密キーが PCR-15 の署名に使用されたことを示します。署名値 2 は、構成証明 (AIK) 秘密キーが PCR Quote の署名に使用されたことを示します。

例

例 1 : 次の例では、署名なしで PCR-15 の内容を表示します。

```
switchxxxxxx> show platform hardware integrity
PCR15: b45f34da34c6b142569f2c4f36264f3d0dfadde33f7721ed4bfd7b329ec71e6c
```

例 2 : 次の例では、ナンスなしの SUDI 秘密キーを使用して PCR-15 の署名付きで PCR-15 を表示します。

```
switchxxxxxx> show platform hardware integrity sign
PCR15: b45f34da34c6b142569f2c4f36264f3d0dfadde33f7721ed4bfd7b329ec71e6c
Signature Version: 1
Signature:
aba857b3c4a00191d6bc01617b5e73755810f0f4f67230e96de7a305f6882d94da9bdd2df3f12472
33f42fe0137b11971c128252e3a9813ec78d8640d87f284fc427db96b3412a07c24c78cda2242bd5
96c69ea06beb28feabfa014c48b96f420d65ffa725221319791e1f7c094acf743bbd48b7aafe088b
147894de42ca0e0634155432d8092b0ca82eb246ddb2de9a0bbd9a7914fdd7a1628dd5a29bbc4d02
9ddf846938e0b47f63bc488cf3dd2f439e684989ff39e834ac7534f5bc2187b293cfc5445af9a905
c8a3a5366fbc2cd74868912105ef4880a203772946ffae2de126cd769d111b362210bb9ce7a2af7b
f423360a90ac8dde4aacc2b47a7cc923
```

例 3 : 次の例では、ナンス 613 の構成証明 (AIK) キーを使用して PCR-15、PCR-15 Quote、および見積の署名を表示します。

```
switchxxxxxx> show platform hardware integrity sign attestation nonce 613
PCR15: b45f34da34c6b142569f2c4f36264f3d0dfadde33f7721ed4bfd7b329ec71e6c
Signature Version: 2
Quote:
ff54434780180022000b9f2c580f14cf6f157964c1dc9fb17f8a9504b50976a120fb870831db9242
e5ac00207e5fab8920a8bbcd214d7ade666c74fc07f2aa41298ac81177dc9ba7f5af978100000000
002be9b50000002400000000100020110000000000000001000b030080000020f508f73aab654d
716ae4a511616843ca53bdef8bb7959a26226dd4d477e7170b
Signature:
36e4f4d5fecaa820cd9dfb879b170007e35eeb2edb1ddb9736580c3bd7aefc1312e6bb946573b8ef
45b9f97084b1648c704d4e54ff6aa854e2ebd4389c880b2c060be391e14d14a411cc675fe6cde688
cf3d688570eaf5bd08b69185f7dfcbb2a5329939096aa47b0bea5fc0f1907029789f67fbb187d88
2dc69bf24dda351fc55846be38d233d40a164f30a82482f72733c9c33dec06376527034ab19490b
fccbd8f4e108910fa0a923047f98e8c45ba9d9d8e28d134662c52d6ed5616d6fc33e40985b6c3921
644d3e53570c5bc17a7f4289cd46fb3f72a7e440720751889a2552395e9ef66ba9a6d8fe9b9a6aeb
a74e43129fa5447ad9b7158401cd9174
```

show platform integrity

アクティブユニットのブート完全性の可視性（BIV）情報を表示し、オプションで、コマンド出力表示に含まれる PCR または PCR Quote の署名を表示するには、show platform Integrity 特権 EXEC モードコマンドを使用します。

構文

```
show platform integrity [sign [attestation] [nonce <nonce>]]
```

パラメータ

- **sign** : (オプション) コマンド出力に表示される PCR または PCR Quote の署名を表示します。
- **attestation** : (オプション) 構成証明 (AIK) 秘密キーを使用して PCR Quote に署名します。attestation が指定されていない場合は、SUDI 秘密キーを使用して PCR に署名します。
- **[nonce <nonce value>]** : (オプション) リプレイアタックから保護するために署名で使用するナンスを指定します。(範囲: 0 ~ 4,294,967,295)

デフォルトの使用

PCR 情報は署名なしで表示されます。sign キーワードをナンス値なしで指定した場合、署名はナンスを使用せずに生成されます。attestation キーワードが指定されていない場合は、SUDI 秘密キーが PCR の署名に使用されます。

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

show platform Integrity コマンドは、オンデマンドのブート整合性の可視性 (BIV) 構成証明を提供します。このコマンドは、アクティブユニットのブートローダーイメージと OS イメージのブートアップ測定値を表示します。測定値はハッシュ値として表示されます。また、コマンド出力には PCR-0 および PCR-8 の内容が表示されます。PCR-0 はブートローダー イメージハッシュの拡張で、PCR-8 は OS イメージハッシュの拡張です。sign キーワードを使用した場合、コマンド出力で PCR-0 および PCR-8 の署名が表示されます。attestation キーワードを使用した場合、コマンド出力には PCR Quote も含まれ、署名は見積に表示されます。

コマンドは、リプレイアタックを防ぐために書入りの一部として使用されるオプションの [nonce <nonce value>] パラメータもサポートしています。[nonce <nonce value>] パラメータが指定されていない場合、署名されたデータにナンスは含まれません。

コマンド出力には、署名バージョンが含まれます。署名値 1 は、SUDI 秘密キーが PCR-0 および PCR-8 の署名に使用されたことを示し、署名値 2 は、構成証明 (AIK) 秘密キーが PCR Quote の署名に使用されたことを示します。

例

例 1：次の例では、イメージの測定値と PCR-0 および PCR-8 の内容を署名なしで表示します。

```
switchxxxxxx> show platform integrity
Platform: C1300-48P-4X
Boot Loader Version: 1.0.74
Boot Loader Hash:
810ca3abed75aec7fe3aeb5baa452e7577d2cd15970dae948368f23ee17575b2ae47701e5
OS Version: 4.0.0.76
OS Hash: 26F68EE9341A4CBB552D1A3D9B02920DF126287F12EEEEADFC47BD0A8EE8B7D04
PCR0: ca153e2fddadb6af4b08721421c336d874f0a950c7f9699c1509a5fcb86017d6
PCR8: 9c26a9a7ca8033bb050df2b6974cbe0d3f17d65302feb637b40a37aff976e8b9
```

例 2：次の例では、SUDI 秘密キーとナンズ値 248 を使用して、PCR-0 および PCR-8 の署名付きで、PCR-0 および PCR-8 のイメージの測定値と内容を表示します。

```
switchxxxxxx> show platform integrity sign nonce 248
Platform: C1300-48P-4X
Boot Loader Version: 1.0.74
Boot Loader Hash:
810ca3abed75aec7fe3aeb5baa452e7577d2cd15970dae948368f23ee17575b2ae47701e5
OS Version: 4.0.0.76
OS Hash: 26F68EE9341A4CBB552D1A3D9B02920DF126287F12EEEEADFC47BD0A8EE8B7D04
PCR0: ca153e2fddadb6af4b08721421c336d874f0a950c7f9699c1509a5fcb86017d6
PCR8: 9c26a9a7ca8033bb050df2b6974cbe0d3f17d65302feb637b40a37aff976e8b9
Signature Version: 1
Signature:
74c2795731dad3fd9cb35310e3d3070dc666ec0ced60ad1b4586f08c18a7d6f5c82db6ac755794ca
810ca3abed75aec7fe3aeb5baa452e7577d2cd15970dae948368f23ee17575b2ae47701e5cac3d89
838696745bfbc620a95523574c6cc6128fbfcbaf86df88d5f56bda32d9f82f3b10ca8d170eac17f0
526194afd80c7880f8074de85eb81777bc94a6ef748f04737bb1ed29debb2d1c0a71074e8e4513b6
ba9253460c205cdd641bfe7976d16d13857db0115a9efd427ce0cccd86c1832b6ad3408640fec4a6f
ca40baebca3a0e2ab395774223776ebec279e7ec7c759e949fee756f47cb6ca6c326edf68a35444
33f3ef8befcaac78b631188204191745
```

例 3：次の例では、構成証明 (AIK) キーとナンズ値 365 を使用して、イメージの測定値、PCR-0 と PCR-8 の内容、PCR Quote、および見積の署名を表示します。

```
switchxxxxxx> show platform integrity sign attestation nonce 365
Platform: C1300-48P-4X
Boot Loader Version: 1.0.74
Boot Loader Hash:
810ca3abed75aec7fe3aeb5baa452e7577d2cd15970dae948368f23ee17575b2ae47701e5
OS Version: 4.0.0.76
OS Hash: 26F68EE9341A4CBB552D1A3D9B02920DF126287F12EEEEADFC47BD0A8EE8B7D04
PCR0: ca153e2fddadb6af4b08721421c336d874f0a950c7f9699c1509a5fcb86017d6
PCR8: 9c26a9a7ca8033bb050df2b6974cbe0d3f17d65302feb637b40a37aff976e8b9
Signature Version: 2
Quote:
ff54434780180022000b9f2c580f14cf6f157964c1dc9fb17f8a9504b50976a120fb870831db9242
e5ac0008000000000000016d0000000002d085b00000024000000001000201100000000000000
01000b0301010000200bf8a79c7d864c5556976737edc9a8e870e767d371cf6239892401f76e377e
64
Signature:
14d9b51c83185e790d6485ca76d58bfaab925ba0bc1f1a5ea4590d244b5206c69f53c84d8fc6d715
3af67ab747c7aebd3ba81bf36fbb11e45097adbc6dec2d924496165505c52dc6a77c386156188e9e
0ce03d58cde1babe45141760a8b965440a82af1d3751e9f0b8e8570564c416a407fee901c175594
b7b2a556985c8df924b576f9d898e84db344af19aa724b20f5832d18c1ba2b0c501ef57670dfa643
31970179ea8415aaf2424abdf197386a8b6018c75f2346b930c982eba309aef350075812b894c2ac
36af9594d0d27b0c9aab0e6be17575ba1fc90d898cf70ed6e0alccdb15592b9ba8f08d6fb98f70a2
33905b820c64c08247e5ea2a81849b11
```

show reload

デバイスのステータスについて保留中のリロードがあるかどうかを表示するには、**show reload** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

show reload

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、保留中のソフトウェアのリロードを表示できます。保留中のリロードをキャンセルするには、このコマンドに **cancel** パラメータを指定します。

例

次の例では、リロードが 4 月 20 日土曜日 00:00 にスケジューリングされていることを表示しています。

```
switchxxxxxx> show reload  
Reload scheduled for 00:00:00 UTC Sat April 20 (in 3 hours and 12 minutes)
```

show sessions

オープンしている Telnet セッションを表示するには、**show sessions** ユーザ EXEC モード コマンドを使用します。

構文

show sessions

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルトの使用

なし

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

show sessions コマンドは、ローカル デバイスへの現在の Telnet セッションによってオープンされたリモートホストへの Telnet セッションを表示します。ローカル デバイスへの他の Telnet セッションによってオープンされたリモートホストへの Telnet セッションは表示しません。

例

次に、オープンしている Telnet セッションを表示する例を示します。

| switchxxxxxx> show sessions | | | | |
|-----------------------------|---------------|------------|-------|-------|
| Connection | Host | Address | Port | Byte |
| ----- | ----- | ----- | ----- | ----- |
| 1 | Remote router | 172.16.1.1 | 23 | 89 |
| 2 | 172.16.1.2 | 172.16.1.2 | 23 | 8 |

次の表では、上記の重要なフィールドについて説明します。

| フィールド | 説明 |
|------------|------------------------------------|
| Connection | 接続番号。 |
| Host | Telnet セッションを介してデバイスが接続されるリモートホスト。 |
| Address | リモートホストの IP アドレス。 |
| Port | Telnet TCP ポート番号。 |

| フィールド | 説明 |
|-------|-------------------------------|
| Byte | この接続でユーザに表示されるバイトのうち未読のバイトの数。 |

show software versions

システムソフトウェアバージョン情報を表示するには、**show software versions** 特権 EXEC モードコマンドを使用します。

構文

show software versions [unit *unit-id*] [detailed]

パラメータ

- **Detailed** : (オプション) BootRom ブートオン、CPLD、PoE コントローラ、OpenSSH、および OpenSSL に関連する追加のソフトウェアバージョンも表示します。

デフォルト

次のソフトウェアバージョン情報 (イメージ、ブートローダー、およびカーネル) を表示します。

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

show software versions コマンドは、デバイスのイメージ、BootRom、ブートオン、ブートローダー、カーネル、および関連するソフトウェアモジュールのバージョン情報を表示します。

例

例 1 : 次の例では、基本的なデバイス ソフトウェア バージョン情報を表示します。

```
switchxxxxxx# show software versions
```

| | |
|-------------------------|--|
| アクティブイメージのバージョン : | 1.2.3.4 |
| 非アクティブイメージのバージョン : | 5.6.7.8 (再起動後にアクティブ) |
| カーネルのバージョン : | Linux 3.10.70 |
| ユニット 1 のブートローダーのバージョン : | U-Boot 2013.01 (2018 年 9 月 2 日 - 00:32:52) |

例 2 : 次の例では、詳細なデバイス ソフトウェア バージョン情報を表示します。

```
switchxxxxxx# show software versions detailed
```

| | |
|--------------------|----------------------|
| アクティブイメージのバージョン : | 1.2.3.4 |
| 非アクティブイメージのバージョン : | 5.6.7.8 (再起動後にアクティブ) |

| | |
|--------------------|--|
| カーネルのバージョン : | Linux 3.10.70 |
| OpenSSL のバージョン : | 1.1.0b |
| OpenSSH のバージョン : | 7.3p1 |
| BootRom のバージョン : | 1.20 |
| ブートオンのバージョン : | 6.13 |
| ブートローダーのバージョン : | U-Boot 2013.01 (2018 年 9 月 2 日 - 00:32:52) |
| CPLD のバージョン : | 9.29 |
| PoE コントローラのバージョン : | 21.190.18.3 |

show system

システム情報を表示するには、**show system** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。

構文

```
show system [unit unit-id]
```

パラメータ

unit-id : ユニット番号を指定します。(範囲 : 1 ~ 4)

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

システム情報を表示するには、**show system** コマンドを使用します。

システム MAC アドレスの出力には、デバイスのベース MAC アドレスが表示されます (ユーザが設定することはできません)。

システムオブジェクト ID の出力には、一意のシステムオブジェクト ID が表示されます (ユーザは設定できません)。

The *fan* output displays, per each unit, the device fan(s) status summary. The value of fail indicates that one or more of the fans is not functioning properly. To view specific status per each fan in device use the command [show system fans \(42 ページ\)](#) .

The *sensor* and *temperature* output displays, per each unit, the temperature level and general status of all sensors. The value of fail for sensors indicates one ore more sensors are not functioning properly. To view per sensor status, temperature read and threshold levels, use command [show system sensors \(45 ページ\)](#) .

例 1 : 次に、スタックのシステム情報を表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show system
System Description:                C1300-48P-4X
System Up Time (days,hour:min:sec): 03,02:27:46
System Contact:
System Name:                        switch151400
System Location:
System MAC Address:                 00:24:ab:15:14:00
System Object ID:                   1.3.6.1.4.1.9.6.1.1006.48.5
Unit      Type
-----
1          C1300-48P-4X
2          C1300-48P-4X
Unit Fans Status
-----
1          OK
2          fail
Unit      Sensor Status              Temperature Level
-----
1          OK                          Warning
2          Fail                         Warning
```

例 2 : 次に、スタック内のユニット 2 のシステム情報を表示する例を示します。

```
switchxxxxx# show system unit 2
System Description:                xxxx
System Up Time (days,hour:min:sec): 08,23:03:46
System Contact:
System Name:
System Location:
System MAC Address:                00:99:88:66:33:33
System Object ID:                  1.3.6.1.4.1.674.10895.3031
Fans Status:                        OK
#Editor: For systems with no temperature sensors, the temperature in the following line
will be blank and the Status will be N/A
Unit   Sensor Status                Temperature Level
----   -
2      Fail                          Critical
```

show system languages

サポートされている言語のリストを表示するには、**show system languages** ユーザ EXEC モード コマンドを使用します。

構文

show system languages

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルトの使用

なし

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

次に、デバイスに設定された言語を表示する例を示します。Number of Sections は、デバイスで許可されている言語の数を示します。

```
switchxxxxxx> show system languages
Language Name  Unicode Name  Code
-----
English        English       en-US
Japanese       μñÑµ£¥F-P   ja-JP
```

show system tcam utilization

TCAM (Ternary Content Addressable Memory) 使用率を表示するには、**show system tcam utilization EXEC** モード コマンドを使用します。

構文

show system tcam utilization[*unit unit-id*]

パラメータ

unit-id : (オプション) ユニット番号を指定します。(範囲 : 1 ~ 4)

デフォルトの使用

なし

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

次の例では、TCAM 使用率情報が表示されています。

switchxxxxx> **show system tcam utilization**

| | |
|-------------|----------------------|
| System: 75% | |
| Unit | TCAM utilization [%] |
| ---- | ----- |
| 1 | 58 |
| 2 | 57 |

show services tcp-udp

アクティブな TCP サービスおよび UDP サービスに関する情報を表示するには、**show services tcp-udp** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

```
show services tcp-udp
```

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

出力には、デバイスが TCP/UDP クライアントであるセッションは表示されません。

例

```
switchxxxxxx> show services tcp-udp
Type  Local IP Address      Remote IP address      Service Name      State
-----
TCP   All:22                SSH                    LISTEN
TCP   All:23                Telnet                 LISTEN
TCP   All:80                HTTP                   LISTEN
TCP   All:443               HTTPS                  LISTEN
TCP   172.16.1.1:23        172.16.1.18:8789      Telnet             ESTABLISHED
TCP6  All-23                Telnet                 LISTEN
TCP6  fe80::200:b0ff:fe00:0-23
      fe80::200:b0ff:fe00:0-8999      Telnet             ESTABLISHED
UDP   All:161                SNMP
UDP6 A 11-161                SNMP
```

show tech-support

問題の報告時にテクニカル アシスタンス センターに提供できるシステムと設定の情報を表示するには、**show tech-support** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。

構文

show tech-support [*config* | *memory*]

パラメータ

- **memory** : (オプション) メモリおよびプロセッサの状態データを表示します。
- **config** : (オプション) デバイスでサポートされている CLI コマンド内のスイッチの設定を表示します。

デフォルト設定

デフォルトでは、このコマンドによって、テクニカルサポートに関連する **show** コマンドの出力が表示されます。表示する情報のタイプを指定するには、キーワードを使用します。パラメータを指定しない場合は、すべての設定およびメモリのデータが表示されます。

コマンドタイプ

スイッチ コマンド。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

警告：ネットワーク セグメント上の単一または複数のスイッチで、複数の **show tech-support** コマンドを実行しないでください。これを行うと、STP など一部の時間依存プロトコルのスタベーションが発生する可能性があります。

コンフィギュレーション ファイルの出力の表示にかかる時間が、設定されたセッション タイムアウト時間よりも長い場合、**show tech-support** コマンドはタイムアウトすることがあります。その場合、**set logout timeout** 値に **0** を入力してアイドルセッションの自動切断を無効にするか、より長いタイムアウト値を入力します。

show tech-support コマンド出力は連続表示されるので、1 画面ずつ表示されることはありません。出力を中断するには、Esc を押します。

ユーザが **memory** キーワードを指定した場合、**show tech-support** コマンドは次の出力を表示します。

- フラッシュ情報 (ディレクトリ (存在する場合) またはフラッシュ マッピング)
- コマンド **show bootvar** の出力

- バッファ情報 (**print os buff** など)
- メモリ情報 (**print os mem** など)
- プロセス情報 (**print OS tasks** など)
- ソフトウェア コンポーネントのバージョン
- コマンド **show cpu utilization** の出力

show system fans

デバイスのファンのステータスを表示するには、**show system fans** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。

構文

show system fans [*unit-id*]

パラメータ

unit-id : (オプション) リロードするユニット番号を指定します。(範囲 : 1~4)。指定しない場合、すべてのユニットの情報が表示されます。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

ファンごとの詳細情報を表示するには、**show system fan** コマンドを使用します。次の情報が表示されます。

- ファンごとの実際の RPM。
- ファンごとのステータス : 使用可能な値は、OK、fail、read fail;

例

ハードウェアが可変ファン速度をサポートしているユニットに表示されます。

```
switchxxxxxxx> show system fans
```

| ユニット ID : 1 | | |
|----------------------|--------------------------|---------------|
| ユニット/ファン ID ===== | ファンの実際の速度 (RPM) ===== | ファンステータス===== |
| 1/1 | 6000 | OK |
| 1/2 | NA | Fail |
| 1/3 | NA | Read fail |
| 1/4 | 4000 | OK |

| ユニット ID : 2 | | |
|----------------------|--------------------------|---------------|
| ユニット/ファン ID ===== | ファンの実際の速度 (RPM) ===== | ファンステータス===== |

| | | |
|-----|------|----|
| 2/1 | 8000 | OK |
| 2/2 | 8000 | OK |
| 2/3 | 8000 | OK |

| | | |
|----------------------|--------------------------|---------------|
| ユニット ID : 3 | | |
| ユニット/ファン ID ===== | ファンの実際の速度 (RPM) ===== | ファンステータス===== |
| 3/1 | 5000 | OK |
| 3/2 | 4500 | OK |
| 3/3 | 5000 | OK |

ファン速度の表示をサポートしていないデバイスの表示 :

```
switchxxxxxx> show system fans
```

| | |
|----------------------|---------------|
| ユニット ID : 1 | |
| ユニット/ファン ID ===== | ファンステータス===== |
| 1/1 | OK |
| 1/2 | Fail |
| 1/3 | Read fail |
| 1/4 | OK |

| | |
|----------------------|---------------|
| ユニット ID : 2 | |
| ユニット/ファン ID ===== | ファンステータス===== |
| 2/1 | OK |
| 2/2 | OK |
| 2/3 | OK |

| | |
|----------------------|---------------|
| ユニット ID : 3 | |
| ユニット/ファン ID ===== | ファンステータス===== |
| 3/1 | OK |

| | |
|-----|----|
| 3/2 | OK |
| 3/3 | OK |

show system sensors

温度センサーのステータスを表示するには、**show system sensors** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。

構文

show system sensors

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルトの使用

なし

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

各デバイスセンサーごとに詳細なセンサー情報を表示するには、**show systemensors** コマンドを使用します。スタック内のユニットごとに情報を表示します。

次の情報が表示されます。

- センサーステータス
- センサー温度の読み取り値
- 警告およびクリティカルなアラームしきい値（摂氏温度）
- 特定のセンサーの位置。使用可能な位置は、PP（パケットプロセッサセンサー）、PCB（プリント基板回路路上にあるセンサー）、PHY（PHYセンサー）、POE（Poe チップセンサー）。

例

複数のセンサーステータスを伴うスタックシステムの表示

```
switchxxxxxxx> show system sensors
```

| ユニット/センサー ===== | センサーのステータス ===== | 温度 (C) ===== | 警告アラーム温度 (C) ===== | クリティカルアラーム温度 (C) | センサーの位置 ===== |
|--------------------|---------------------|-----------------|-----------------------|------------------|------------------|
| 1/1 | OK | 44 | 50 | 65 | PCB |
| 1/2 | Failure | NA | 65 | 75 | PP |

 show system sensors

| | | | | | |
|-----|----|----|----|----|-----|
| 2/1 | OK | 65 | 60 | 70 | PHY |
|-----|----|----|----|----|-----|

show system id

システムアイデンティティ情報を表示するには、**show system id** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。

構文

```
show system id [unit unit-id]
```

パラメータ

unit unit-id : (オプション) ユニット番号または all (すべて)。指定しない場合、デフォルトでは all です。(範囲 : 1 ~ 4)

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

次の例では、システムの識別情報を表示します。

```
switchxxxxxx> show system id  
serial number 114
```

show ports leds configuration

ポートのLEDが有効か無効かを表示するには、**show port leds configuration** ユーザ EXEC モードを使用します。

コマンドを使用する必要があります。

構文

show ports leds configuration

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例 1: 次に、ポートのLEDが有効になっている場合に、そのステータスを表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx> show ports leds configuration
Port leds are not disabled
x
```

例 2: 次の例では、ポートのLEDがオフになっているときのLEDのステータスを表示します。

```
switchxxxxxxx> show port leds configuration
Port leds are disabled
```

show users

アクティブなユーザに関する情報を表示するには、**show users** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。

構文

show users

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルトの使用

なし

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

次の例では、アクティブなユーザに関する情報を表示しています。

| switchxxxxxx> show users | | |
|---------------------------------|----------|------------|
| Username | Protocol | Location |
| ----- | ----- | ----- |
| Bob | Serial | 172.16.0.1 |
| John | SSH | 172.16.0.8 |
| Robert | HTTP | 172.16.1.7 |
| Betty | Telnet | 172.16.1.6 |
| Sam | | |

show hardware version

ハードウェアバージョン情報を表示するには、**show hardware version** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。

構文

show hardware version [**unit** *unit-id*]

パラメータ

- **unit** : (オプション) ユニット番号を指定します。(範囲: 1 ~ 4)

デフォルトの使用

ユニットが指定されていない場合は、すべてのユニットのハードウェアバージョンを示します。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

次に、ハードウェアバージョン情報を表示する例を示します。

```
switchxxxxxx> show hardware version
Unit   HW Version
----   -
1      1.0.0
2      1.0.0.
```

show hardware components

デバイスのハードウェアコンポーネント情報を表示するには、**show hardware components** 特権 EXEC モードコマンドを使用します。

構文

show hardware components

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

show hardware components コマンドは、パケットプロセッサ、CPU、フラッシュ、PHY、およびその他のハードウェアコンポーネントなど、デバイスのコンポーネントの情報を表示します。

コンポーネントごとに表示される情報は、そのコンポーネントで使用可能な情報によって異なります。表示される情報の例：ベンダー名、製造部品番号（MPN）、およびHWのリバージョン。

例

例 1：次の例では、デバイス ハードウェア コンポーネントに関する情報を示します。

```
switchxxxxxx# show hardware components
```

| MAC info: | | | |
|-------------------------|---------------|----------|----------|
| ユニット ID/MAC ID ----- | ベンダー ----- | MPN ---- | 改定 ----- |
| 1 | Marvell | 98DX3236 | A0 |
| 2 | Marvell | 98DX3336 | A0 |

```
CPU info:
```

| ユニット ID ----- | ベンダー ----- | MPN ---- |
|---------------|------------|------------------------|
| 1 | Marvell | 88F6820 (Armada ARMv7) |
| 2 | Marvell | MV78230 |

| PHY info: | | | |
|------------------------|---------------|----------|----------|
| ユニットID/PHY ID ----- | ベンダー ----- | MPN ---- | 改定 ----- |
| 1 | Marvell | 88E1680 | A0 |
| 2 | Marvell | 88E3222 | NS |
| 2/1 | Marvell | 88E3680 | A0 |

| Flash info: | | |
|------------------|---------------|-------------------------------|
| ユニット ID ----- | ベンダー ----- | MPN ---- |
| 1 | Micron | JS28F640J3D-75 (65536 キロバイト) |
| 2 | MXIC Macronix | MX30LF2G18AC-TI (65536 キロバイト) |

system light

デバイスまたはスタック内の特定のユニットのネットワークポートのLEDを点灯させるには、**system light** EXEC モードコマンドを使用します。

構文

```
system light [unit unit-id] [duration seconds]
```

```
system light stop
```

パラメータ

- **unit-id** : ユニット番号を指定します。または、空白のままにすると、すべてのLEDが点灯します。
- **duration seconds** : LEDを点灯させる秒数。指定しない場合は、デフォルトで60秒に設定されます。(範囲: 5 ~ 3600)
- **stop** : LEDの点灯を停止します。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

次に、システムLEDを6秒間点灯させる例を示します。

```
switchxxxxxx> system light duration 65
```

system recovery

クリティカルなしきい値に達した温度から自動的に回復するようにシステムを設定するには、**system recovery** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。

自動回復を無効に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

system recovery

no system recovery

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

システム回復は、デフォルトで有効になっています。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

```
switchxxxxxx(config)# no system recovery
```

system reset-button disable

デバイスのリセットボタンのリセット機能を無効にするには、`system reset-button disable` グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。リセットボタンの機能を再度有効にするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

構文

system reset-button disable

no system reset-button disable

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

デフォルトでは、デバイスのリセットボタンの機能は有効になっています。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

デバイスのリセットボタンのリセット機能を無効にするには、`system reset-button disable` コマンドを使用します。このコマンドを適用すると、リセットボタンを押しても、デバイスがリロードを行ったり、工場出荷時のデフォルトにリセットされたりすることはありません。これは、誤ってボタンを押したためにデバイスが不要なリロードを行ったり、工場出荷時のデフォルトに設定されたりするのを防ぐのに役立ちます。このコマンドは、スタック内のすべてのユニットのリセットボタンの機能を無効にします。

リセットボタンにリロードや工場出荷時のデフォルトへのリセット以外の機能がある場合、それらの機能はこの設定の影響を受けません。

リセットボタンを再度アクティブにし、ボタンを押すことでデバイスのリロードや工場出荷時のデフォルトへのリセットができるようにするには、コマンドの `no` 形式を使用します。

例

```
switchxxxxxx(config)# system reset-button disable
```

system reset-button disable

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。